

「ひつくり」な財産

チームで取り組み、人を育てる

市長 皆さんのお話しを伺っていると、それぞれ社員の方々の情熱が「ものづくり」を支えていると感じました。

そのような情熱を持った社員の育成、つまり「ひつくり」についてどのような思いがありますか。

関根 人生は平坦なことが一番理想です。けれども良いことも悪いことも、両方を経験した人は、「落ち込んでみず這い上がれる」と私は信じています。

例えば、外国人は「自分のものが一番だ」と積極的に売り込みますが、日本人は「もの良さは使えば分かる」と強く売り込みません。でも、それは国内でのみ通用すること。海外では黙っていても何も伝わらないんです。海外に行くことで、負の部分も自覚でき、社員の考え方も大きく変わってきますね。

若松 我々の中小企業は、どうしても人材の確保が難しい。それでも毎年、新入社員を入れ、育成しながらピカピカに磨いていますよ。一企業として「お客様のニーズ以上のものを提供したい」という熱意を持っていますので、志の高い社員を育てる責任があります。

若松 昔は社長になるという目標を持った子どもが多かったけれど、最近はリスクを恐れるのか、あまり聞きませんね。社長に魅力がない訳ではないと思いますが、もっと自己主張して欲しいと思います。勇気を持って生きる子どもが、狭山から出て欲しいね。

市長 そうですね。我々大人が子ども達に、明るい「希望」を持たせないとダメですね。



すから、いつも「熱い集団を作れ」と言っています。一人では良い製品は生まれません。常に熱い気持ちをを持ったプロフェッショナル集団を育て、その結果、お客様が喜んでいただけるということになります。それが、我々の喜びであり、その可能性を引き出していくのが私たちの仕事なんです。

市長 私も全く同感です。狭山市にも情熱を持つ多くの市民の方がいらつしゃいます。私は、そういった方々と力を合わせて市政に取り組んでいきたいと思っています。

ところで、岩崎さんの会社は創業から長い年月が過ぎ、社長も代わりられています。人材育成についても進化されているのでしょうか。

岩崎 私の会社ではチームでの取り組みを基本にしているので、必ずチームを引っ張るリーダーが必要。その人材をいかに育てるかが命題になっています。

本人の好き嫌いに関係なく、リーダーとして前面に出させているのが、そういう経験を積ませることが、資質を高めるためには必要です。責任を持たせる機会を与える

岩崎 実は過去に5年ほど狭山市から離れていた時期もあったのですが、戻ったときに「何も変わっていない」と感じることはありません。変わらないうえにもあるけれど、これでは時代についていくことができない。今では多くの方が狭山の企業へ足を運ぶので、「狭山市は、こういう魅力のあるまちだよ」と語れるまちにしたいですね。

関根 東京オリンピックで外国からたくさんのお客さんがやってきます。狭山市にも寄ってもらって、すごい「ものづくり」企業があることをアピールすることも必要だと思います。

若松 1着10億円もする宇宙服の縫製工場の話を知っていますか。アメリカにある人口たった800人の村の女性を作っているんです。彼女たちの能力の高さを感じます。これからは、女性が生き生きと働く場所があることが、元気の良い企業の誘致に繋がりますね。

私が狭山に来た昭和40年代は、まちに活気を感じました。企業はエネルギーがないと、まちは活性化しないでしょう。私たち民間と市の協力は必要です。それがなければ発展どころか継続もないと思います。

市長 狭山市の発展を振り返ってみると、企業の発展とともに人口

ことで成長させます。成長する人間はみるみる成長しますね。「いかに社員に機会を提供してあげられるか」ということを常に考えています。

市長 経験値を上げるという事は、「まちづくり」においても同様ですね。上手いかなくても経験がステップになります。いろいろなイベントや事業に市民にも参加し、経験して、そして意見を述べてもらいたいですね。

もう一つ経験といえば、狭山の子ども達に、市内には宇宙を飛んでいるものや、誰もが手に取って触りたいと思えるものを作っている、すごい仕事をしている人たちがいることを知ってもらいたいですね。そして、狭山市に生まれ育つたからこそできる経験を通じて、「夢や希望」を持つ大人に成長していきける、そんな「まちづくり」をしたいと思っています。

皆さんのような会社の存在自体が夢を与えてくれると思っています。ですが、会社と市との関わりについて、思いや願いはありますか。

岩崎 狭山市在住の社員もいるので、会社も地域との交流が少しずつ

が増え、まちが成長してきました。企業が誘致するうえで、災害が少ないことは、狭山市の大きなセールスポイントです。さらに圏央道があることで流通もスムーズでしょう。もっとアピールしていかないとはいけません。

岩崎 圏央道の利便性は実感しています。おかげで移動時間が随分短縮されました。企業にとっては

未来を担う子ども達へ

市長 狭山市も、これからの「まちづくり」を担う「ひつくり」が大切だと思っています。その主役として期待されるのは、やはり子ども達。その狭山市の未来を担う子ども達に何かメッセージなどをいだけますでしょうか。

若松 子ども達は未来への宝。とにかく大きな夢を持って欲しいですね。夢は「見るもの」ではなく、「叶えるもの」。計画的に努力して頑張っていると、必ず誰かが応援してくれれます。

関根 どんなことでも楽しく、前向きにチャレンジし続けることが大切です。楽しくないと辛いし、つまらない。失敗しても頑張っていると、目の前には壁を越えることができます。反省はしても後悔



株アダムジャパン製作のピリヤード用キュースティック



大星電機株式会社製作の宇宙ハーネスを配備した宇宙ステーション「きぼう」



株フィアロコーポレーション製作のデザイナー

つ図れるようになればいいなと思っています。会社の外から「狭山の企業」として頑張っている姿を見られていると、我々の意識も変わりますしね。

関根 私は市内の会社のものづくりを、まち全体で「見える化」できるといいなと思います。子ども達は会社に勤めている親の姿は見えないから、どうやって働いているか知らないんです。

市長 私は、「絶対に地元で政治家になる」という夢を叶えるために頑張ってきました。最近、大人が人間としての生き方を子どもに見せる機会が少ないと思うんですよ。「狭山市で働きたい」と思う子どもを一人でも増やすことが、私の使命だと思っています。

大きなメリットですね。

若松 若者が集まって「他のまちにはない魅力を感じる狭山市」になつていきたいですね。

関根 狭山市の魅力が見えるという口も増えるし企業も来ると思いますが、まずはメリットを感じさせること。そして、狭山市から離れさせない。「狭山市は面白いところだ」ということを根付かせるべきです。

「夢」を持ち「夢」を叶えるために

しないことです。

岩崎 考えることよりも先に行動に移してほしい。細かいことは考えずに、自分がやりたいことをやってほしいと思います。

市長 私はそれぞれの「夢」を狭山市で叶えてもらいたいと思っています。私も夢を持って、あきらめずに努力してきました。ですから、子ども達が夢に向かって頑張ることを応援したい。そのために、何よりも「狭山市の未来」を守り、次世代へ引き継ぐことが、私の責務であると強く思っています。

今日は皆さんから対話で元気をいただきました。私は、狭山市のさらなる発展のために、今年も全力で情熱を注いでまいります。ありがとうございます。